

2016 年度事業報告書

2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日まで

NPO 法人アカツキ

1 事業の成果

①非営利団体及び市民団体等のコンサルティングとその成果物の販売事業

半年から年間を通じた長期コンサルティングにおいては、定期イベントやキャンペーン、情報発信によるファンドレイジング体質と内部コミュニケーション改善を中心に。単発～3ヶ月程度の短期コンサルティングでは、会員制度の設計や会計帳簿の整備を行なった。

2015 年度から続く福岡県委託「クラウドファンディング支援事業」においては、キャンペーンによる一斉支援を行なった 6 団体すべてが目標額を達成。合計 300 人の支援者がキャンペーンに参加し、総額 1,715,000 円の資金が集まった。

コンサルティングの対象は国際協力、福祉、まちづくり、中間支援団体などであり、東京や東北の団体も含む合計 20 団体への支援を行なった

②市民社会を担う人材及び団体の育成とコミュニティ構築事業

福岡県・土業・NPO 経営者モニターとの協働で製作した「NPO 法人事務体制整備ノート」は、法務・労務・会計・税務等、法人運営の実務に必要な内容を盛り込み、SNS では 26,000 以上のリーチ・100 以上のシェア・1,000 以上のいいねを獲得し、PDF 版が多くダウンロードで活用されている。

福岡市との「ふくおかファンドレイジング・ゼミ」や、北九州市との「ファンドレイジング入門セミナー」は、いずれも企画段階から行政担当者との丁寧な打ち合わせを重ね、単なる資金調達ではなく仲間集めとしてのファンドレイジングを学ぶことのできる内容を設計した。また分野を超えた NPO 同士の横のつながりをつくることができた。

今年度から依頼を受けた、福岡県内にある自治体職員の合同研修所における「NPO と行政の協働研修」では、NPO の制度や実態、協働のためのノウハウを、丸 1 日かけたワークショップを通じて伝えることができた。

対話と交流の場づくりとして実施している「エンガワの夕げ」と「もくもくダイアログ」については、人員体制や収益性の課題の面から、開催頻度を控える判断を行なった。

③市民活動の調査・研究及びその成果物の出版事業

助成金・補助金を拠出又は運用する地方自治体や地域金融機関等の担当者を交え、NPO の成長や成果に繋がる助成金・補助金の在り方を検討する自主勉強会を 5 回開催した。実際の補助金審査会に陪席し模擬審査を行うことで評価項目について活発な議論を交わし、また申請書の様式を再検討し赤入れを行うなどを通じて、実際に制度に見直しをかけたところも生まれた。

2015 年度より継続する、西日本新聞都市圏版において県内 NPO を紹介する連載記事「希望の種」の執筆を行い、次年度に代表が共著で出版を予定している本の原稿執筆に取り掛かった。

2 事業の実施に関する事項

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事 者の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	事業費の 金額(円)
①非営利団体及び市民団体等のコンサルティングとその成果物の販売事業	ファンドレイジングやNPO 法人運営に関する伴走型コンサルティング支援	通年	福岡県 東京都 仙台市	1 人	NP020 団体	1,266,095
②市民社会を担う人材及び団体の育成とコミュニティ構築事業	NPO 法人事務体制整備ノート制作	2016 年 6 月～ 2017 年 3 月	PDF 形式 で全国に 配布	2 人	全国の NPO 理事・職員約 1,000 人	2,017,048
	ファンドレイジングやNPO 法人運営、行政との協働に関するセミナーやワークショップの開催	通年 (18 回)	福岡市 北九州市	3 人	NP08 団体 NPO 理事・職員約 50 人 福岡県内行政職員約 320 人	1,172,716
	ファンドレイジングやNPO 法人運営に関するイベントでの講師	通年 (10 回)	福岡県 青森県	2 人	NPO やファン ドレイジング に関心のある 者約 310 人	525,736
	エンガワの夕げと、もくもくダイアログにおける対話と交流の場づくり	通年 (3 回)	福岡市	2 人	一般市民約 35 人	166,905
③市民活動の調査・研究及びその成果物の出版事業	助成金・補助金の出し方勉強会	通年 (5 回)	福岡県	3 人	行政職員 7 人 金融機関職員 2 人 社協職員 2 人	139,861
	西日本新聞での県内 NPO 紹介記事連載	通年 (15 回)	福岡県	1 人	福岡都市圏版 約 40 万部 NP015 団体	295,755